

## 資料紹介 熊本博物館収蔵の旧石器時代石器資料

美濃口紀子<sup>1)</sup>・南部靖幸<sup>2)</sup>・前田佳代子<sup>3)</sup>

### 1 はじめに

本稿では、当館が収蔵する旧石器時代の石器のうち「新規展示予定資料」(大観峰A遺跡・河原第3・第6遺跡：福田正文氏・吉田雅人氏による採集：No.1～13)及び「従来の常設展示資料」(石飛分校遺跡：片岡栄史氏による採集：No.14、松島遺跡：石橋継義氏・富田紘一氏・福田正文氏らによる採集：No.15～65)について実測・資料紹介を行う。収蔵資料に関する情報をあらためて確認し、今後の展示準備・模型製作に役立てて行きたい。

### 2 資料の経緯

本稿では、大観峰A遺跡・河原第3及び第6遺跡・石飛分校遺跡・松島遺跡の資料紹介を行う。まず本章では、それぞれの資料の経緯について述べる。

#### 1) 大観峰A遺跡

1985年以前に、福田正文氏と故吉田雅人氏によって採集された資料である。過去に一部資料が紹介された経緯がある。近年になって熊本博物館に一括してご寄贈いただいた。熊本博物館リニューアル後には新規展示予定である。

#### 2) 河原第3・第6遺跡

1980年前後、福田正文氏による採集資料である。過去に一部資料が紹介された経緯がある。近年になって熊本博物館に一括してご寄贈いただいた。熊本博物館リニューアル後には新規展示予定である。

#### 3) 石飛分校遺跡

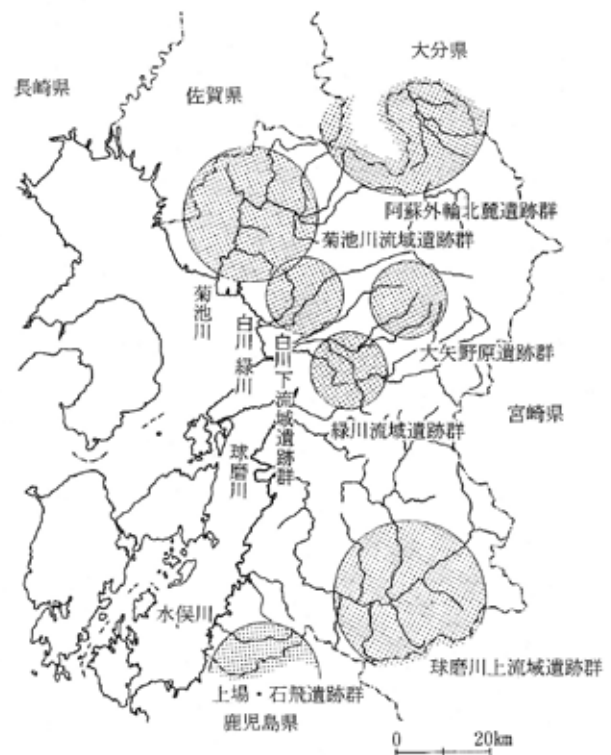
1970年前後、片岡栄史氏による採集資料。博物館新館開館(1978)以来の常設展示資料である。

#### 4) 松島遺跡

1970年前後、石橋継義氏・富田紘一氏・福田正文氏らによる採集資料。熊本博物館新館開館(1978)以来の常設展示資料である。

### 3 遺跡の位置と環境

熊本県下の旧石器時代遺跡については、河川を基本的な単位として遺跡群をなしているとされ、これまでの研究から次の7遺跡群が認識されている(註1・2、第1図)。



第1図 熊本県下の旧石器時代遺跡群  
(註1より転載・一部加筆)

- 1) 阿蘇外輪北麓遺跡群
- 2) 菊池川流域遺跡群
- 3) 大矢野原遺跡群
- 4) 白川下流域遺跡群
- 5) 緑川流域遺跡群
- 6) 球磨川上流域遺跡群
- 7) 上場・石飛遺跡群

本章で取り上げる遺跡の位置と環境については、こうした先学の研究成果を以下に引用しながら紹介していきたい。

1) 熊本博物館 考古担当学芸員 2) 熊本博物館 地質担当学芸員 3) 塚原歴史民俗資料館 嘱託職員

### 1) 大観峰A遺跡(阿蘇市阿蘇町大字山田字端辺)

前述の7遺跡群のうち「阿蘇外輪北麓遺跡群」に属する。阿蘇外輪北麓遺跡群とは、阿蘇外輪山から北方へのびる丘陵上にあり、標高が400～930mと、熊本県下の遺跡群の中で最も高所に位置する遺跡群である。この遺跡群は阿蘇の外輪山上に立地していることから、石器群は厚く堆積した土層中に包含されていて、石器文化の層位的検出に良好な条件を備えた地域の一つである(註3)。

大観峰A遺跡は、阿蘇北外輪山の通称「大観峰」と呼ばれる長く突き出た高台のつけ根部分に立地する。標高は約900mである。古くから石器の採集活動が行われており、採集された資料には、ナイフ形石器、剥片尖頭器、台形石器、縦長剥片などがある(註4)。

なお大観峰A遺跡については、熊本県教育委員会による調査事例がある。剥片尖頭器、エンドスクレイパー、サイドスクレイパー、縦長剥片などが出土しており、石器の包含層は阿蘇地域で一般的に語られる「ソフトローム」の下部から「ハードローム」の上部部分であると判断されている(註5)。

### 2) 河原第3遺跡(旧称:西原A遺跡)(阿蘇郡西原村大字河原字大野)

前述の7遺跡群のうち、「大矢野原遺跡群」に属する。大矢野原遺跡群とは、阿蘇外輪山の南裾野にみられる遺跡群である。遺跡は、傾斜がやや緩やかとなる外輪山の中腹、その小さな馬の背状の尾根部にあり、従って、比較的こじんまりとした規模のものが多い。標高は、200m台もあるが、400～670mのものが多くみられる(註6)。これまでに確認された資料には、始良Tn火山灰(以下ATと略す)降灰以前のもは少なく、それ以降のナイフ形石器文化と細石刃文化に属するものが多い。

河原第3遺跡(旧称:西原A遺跡)(註7)は、阿蘇南外輪山西側の高畑山(標高796m)から西へと伸びる尾根上に立地する。標高は約510m付近である。採集された資料には、細石刃核、ナイフ形石器、台形石器、三稜尖頭器、尖頭状石器、剥片類がある(註8)。

なお河原第3遺跡については、熊本大学文学部考

古学研究室による調査事例がある。AT降灰前段階のものからそれ以降のナイフ形石器群、そして細石刃石器群まで、6枚の旧石器時代の文化層が検出されている(註9)。

### 3) 河原第6遺跡(旧称:西原B遺跡)(阿蘇郡西原村大字河原字大野)

河原第3遺跡と同様、前述の7遺跡群のうち「大矢野原遺跡群」に属する。

河原第6遺跡(旧称:西原B遺跡)(註10)は、前述の高畑山から流れる小河川に面した丘陵頂部に立地する。河原第3遺跡より西方へ約400m離れている。標高は約500mである。採集された資料には、細石刃核、細石刃、ナイフ形石器、剥片尖頭器、三稜尖頭器、石核、剥片類がある(註11)。

### 4) 松島遺跡(菊池市七城町大字小野崎字松島)

前述の7遺跡群のうち、「菊池川流域遺跡群」に属する。菊池川流域遺跡群とは、菊池川の中・下流域にあり、東の阿蘇外輪山や北・西の山地・丘陵地によって囲まれた盆地内にある遺跡群である。遺跡の多くは、台地の末端部付近にあり、沖積地との比高差は40m以下のものがほとんどである(註12)。

松島遺跡(隣接する小野崎遺跡と合わせて松島・小野崎遺跡ともいう)は、菊池川とその支流に挟まれた台地の突端に位置している。台地上の水田を中心に石器が採集されている。本来の出土層位は不明である。多数の細石刃核・細石刃が採集されているが、その総数は細石刃核だけでも50個を上回るとされる。この他、スクレイパー数点と二側縁加工のナイフ形石器1点が採集されている(註13)。

### 5) 石飛分校遺跡(水俣市大字石坂川字石飛)

前述の7遺跡群のうち、「上場・石飛遺跡群」に属する。上場・石飛遺跡群とは、九州脊梁山地中の高原地帯にあり、熊本県から鹿児島県にかけて広がる平坦部とその周辺の山地や丘陵地に立地する遺跡群で、水俣川の流域にあたっている。標高は300～500mにあり、現時点では400～500mにもっとも集中している(註14)。

石飛分校遺跡は、水俣市街地の東南、国見山系の鬼嶽に属する高地に立地する。標高は約500mである。昭和30年代以降に石器の採集活動が行われてお

り、採集された資料には、ナイフ形石器、スクレイパー、細石刃核・細石刃などがある(註15)。昭和47年(1972)に、水俣市の史跡に指定された。

なお石飛分校遺跡については、鹿児島県立出水高校の故池水寛治氏と考古学部による調査事例がある。入戸火砕流(AT)に対比できる無遺物層の直下層からナイフ形石器、スクレイパー、折断剥片、礫器等が、直上層からはナイフ形石器、台形石器、剥片尖頭器などが、さらに上位層からは細石刃石器群が検出されている(註16)。

#### 4 石材について

石器の石材に用いられている岩石について、肉眼及び双眼実体顕微鏡を用いて観察を行い、下記の5岩石、15種類に区分した。ただし同じ岩石内での区分はあくまで表面観察で見られた特徴によるものである。そのため、これらは必ずしも元となった石材産地の違いを示すものではなく、特に黒曜石に関しては、同一石材の加工部分の品質の違いを反映している可能性もある。

また、種類を特定できなかった岩石については、岩石名を不明として観察された特徴を示す。

##### 安山岩

安山岩については、観察結果から次の5つに細分した。

##### 安山岩1 (No.1～5、7)

暗灰色を示す岩石で、石基中に黒色～暗赤色で多面体状、短柱状の有色鉱物の斑晶を含む。表面全体を覆う風化面は明灰色～褐色を示す。

##### 安山岩2 (No.6)

明灰色を示す岩石で、緻密な石基中に黒色で柱状の有色鉱物や白雲母の斑晶を含む。

##### 安山岩3 (No.8、61)

全体的に明灰色を示す岩石で、暗色の流離構造がみられる。顕微鏡下では流理構造の方向に沿って微細な柱状の鉱物が配列している様子が観察されるが、大きな斑晶はほとんど見当たらない。No.8の空隙には水晶(石英)が存在する。

##### 安山岩4 (No.12、13)

暗灰色を示す岩石で、石基中に黒色～暗赤色で多

面体状、短柱状の有色鉱物の斑晶を含む。全体を覆う風化面は明灰色～褐色を示す。安山岩1に似るが、斑晶の分布密度が低い。

##### 安山岩5 (No.60)

暗灰色を示す岩石で、ガラス質に近い緻密な石基中に、1mm程度の暗緑色で柱状の有色鉱物の斑晶を含む。

##### 玄武岩 (No.11)

全体的に暗灰色を示す岩石で、石器の加工面から突出する鉛色で粒状の斑晶を含む。この斑晶は玄武岩に多く含まれる鉱物であるかんらん石とみられる。石器表面には空隙が多く、これは固結時の脱ガスによるもの、もしくは選択的風化による含有鉱物の溶脱によるものとみられる。

##### 流紋岩 (No.10)

全体的に白色を帯びるが、帯状に暗色部が存在する。白色の部分は主に長石の結晶からなり、暗色部は灰色透明の石英や黒色の黒雲母の分布によるものと思われる。また、空隙には晶洞状に無色鉱物が成長する。構成鉱物の大きさが揃っており等粒状組織に近いが、それぞれの大きさは0.5mm程度と小さく、暗色部が帯状の流離構造を示すことから流紋岩とした。

##### 黒曜石

黒曜石については、観察結果から次の5つに細分した。

##### 黒曜石1 (No.9、15～17、19、21、22、24～27、31、33、34、57)

全体的に明灰色に見えるが、顕微鏡下では透明なガラス中に黒色で微細な粒状や針状の晶子が流理構造にそって配列している様子を観察できる。割れ口は貝殻状断口を示し、強いガラス光沢を放つ。

##### 黒曜石2 (No.14)

全体的に黒色で、強いガラス光沢を放つ。割れ口は貝殻状断口を示し、空隙が多く、空隙の内部には0.3～0.5mm程度の無色鉱物や黒雲母が見られる。

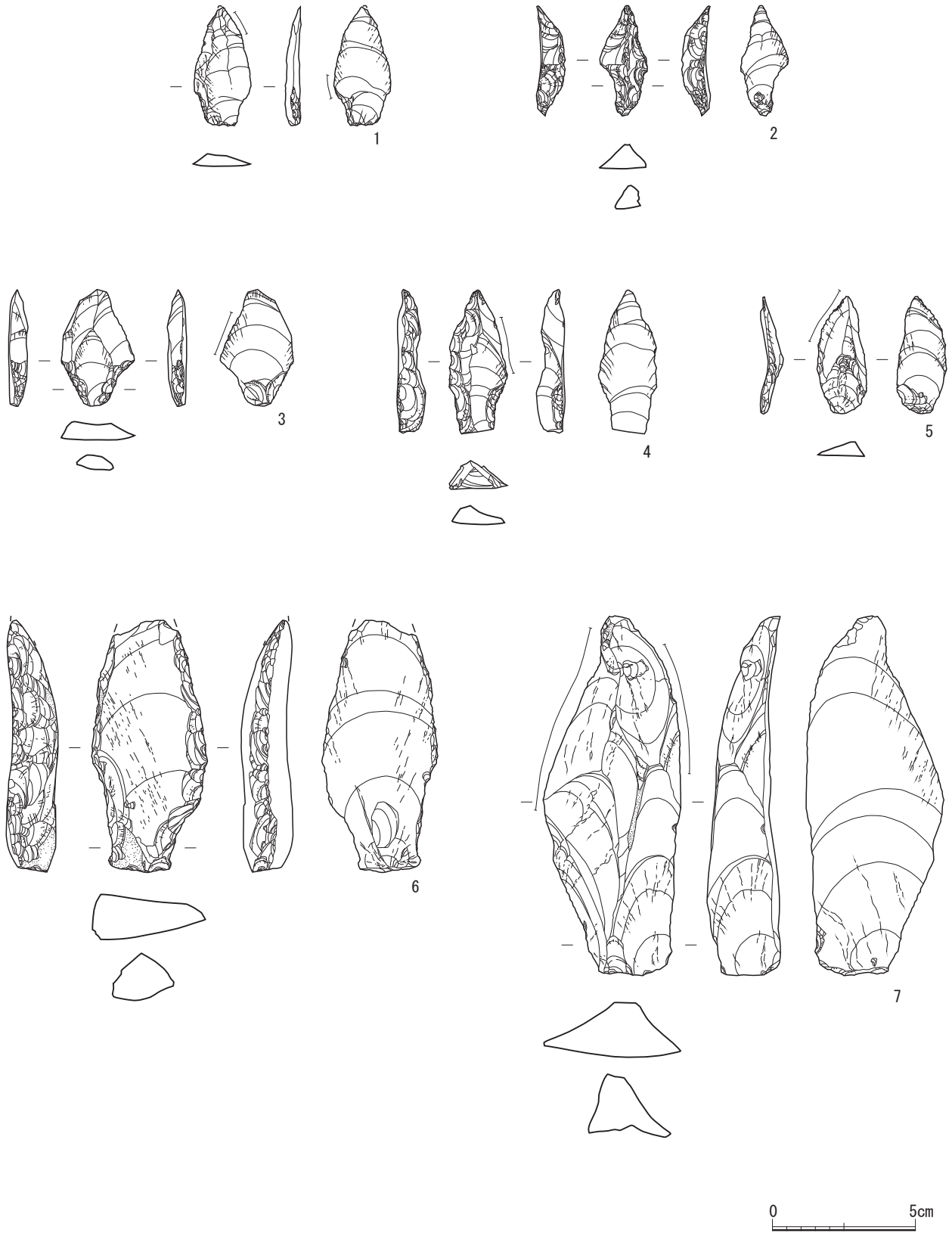
##### 黒曜石3 (No.18)

全体的に茶褐色を示し、顕微鏡下では茶褐色を帯びた透明なガラス中に黒色で微細な晶子と、それと同程度の大きさの気泡を多く含む。割れ口は貝殻状

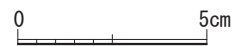
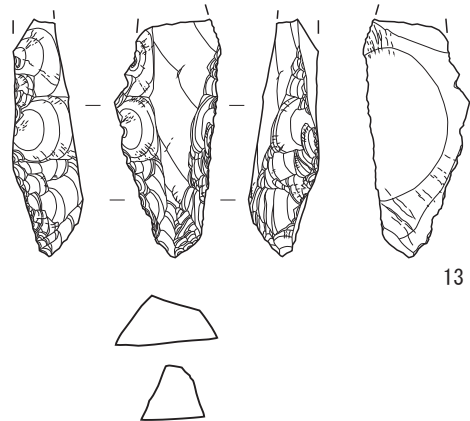
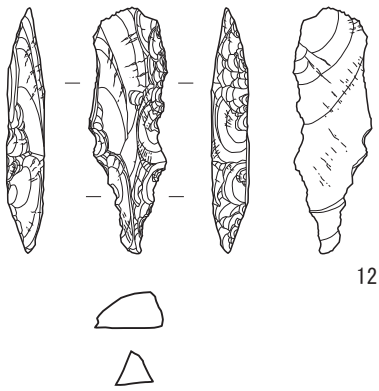
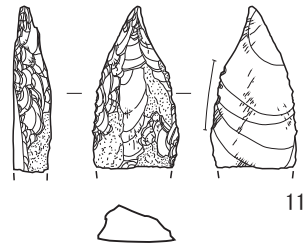
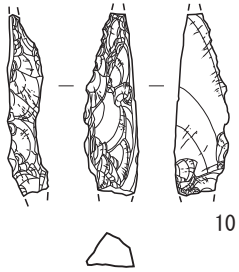
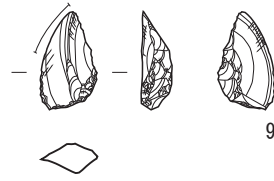
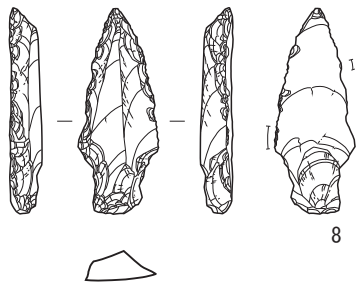
第1表 石器観察表

No.	器種	石材	新遺跡名	旧遺跡名	計測値				既報告 (文献名: 図版No.)	採集者
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
1	ナイフ形石器	安山岩 1	大観峰 A 遺跡	大観峯遺跡	4.15	2.0	0.55	3.723	『肥後考古』第5号 P52	福田・吉田
2	ナイフ形石器	安山岩 1	大観峰 A 遺跡	大観峯遺跡	3.85	1.7	0.85	4.002	『肥後考古』第5号 P52	福田・吉田
3	ナイフ形石器	安山岩 1	大観峰 A 遺跡	大観峯遺跡	4.1	2.6	0.65	6.182	『肥後考古』第5号 P52	福田・吉田
4	ナイフ形石器	安山岩 1	大観峰 A 遺跡	大観峯遺跡	5.0	2.0	1.0	7.752	『肥後考古』第5号 P52	福田・吉田
5	ナイフ形石器	安山岩 1	大観峰 A 遺跡	大観峯遺跡	4.1	1.75	0.45	3.276	—	福田・吉田
6	剥片尖頭器	安山岩 2	大観峰 A 遺跡	大観峯遺跡	8.8	4.1	1.65	65.568	—	福田・吉田
7	使用痕ある剥片	安山岩 1	大観峰 A 遺跡	大観峯遺跡	12.55	4.8	2.2	129.597	—	福田・吉田
8	剥片尖頭器	安山岩 3	河原第 6 遺跡	西原 B 遺跡	5.45	2.1	0.8	8.906	『肥後考古』第5号 P62	福田
9	ナイフ形石器	黒曜石 1	河原第 6 遺跡	西原 B 遺跡	2.6	1.5	0.8	2.239	『肥後考古』第5号 P62	福田
10	ナイフ形石器	流紋岩	河原第 6 遺跡	西原 B 遺跡	4.8	1.45	0.9	6.328	『肥後考古』第5号 P62	福田
11	ナイフ形石器	玄武岩	河原第 6 遺跡	西原 B 遺跡	4.3	2.3	1.0	8.776	『肥後考古』第5号 P61	福田
12	ナイフ形石器	安山岩 4	河原第 3 遺跡	西原 A 遺跡	6.5	2.1	0.95	11.766	『肥後考古』第5号 P59	福田
13	ナイフ形石器	安山岩 4	河原第 3 遺跡	西原 A 遺跡	6.3	2.8	1.45	26.054	『肥後考古』第5号 P59	福田
14	礫器	黒曜石 2	石飛分校遺跡	—	6.4	9.6	3.8	170.928	—	片岡栄史
15	細石刃	黒曜石 1	松島遺跡	—	1.75	0.6	0.2	0.236	—	石橋・富田ほか
16	細石刃	黒曜石 1	松島遺跡	—	1.28	0.6	0.3	0.172	—	石橋・富田ほか
17	細石刃	黒曜石 1	松島遺跡	—	1.4	0.7	0.25	0.189	—	石橋・富田ほか
18	細石刃	黒曜石 3	松島遺跡	—	1.6	0.65	0.18	0.183	—	石橋・富田ほか
19	細石刃	黒曜石 1	松島遺跡	—	2.0	0.6	0.2	0.122	—	石橋・富田ほか
20	細石刃	黒曜石 4	松島遺跡	—	1.3	0.78	0.14	0.151	—	石橋・富田ほか
21	細石刃	黒曜石 1	松島遺跡	—	1.35	0.58	0.2	0.150	—	石橋・富田ほか
22	細石刃	黒曜石 1	松島遺跡	—	1.2	0.7	0.29	0.271	—	石橋・富田ほか
23	細石刃	黒曜石 4	松島遺跡	—	1.75	0.7	0.2	0.162	—	石橋・富田ほか
24	細石刃	黒曜石 1	松島遺跡	—	1.8	0.5	0.15	0.123	—	石橋・富田ほか
25	細石刃	黒曜石 1	松島遺跡	—	1.4	0.5	0.1	0.090	—	石橋・富田ほか
26	細石刃	黒曜石 1	松島遺跡	—	1.3	0.45	0.12	0.089	—	石橋・富田ほか
27	細石刃	黒曜石 1	松島遺跡	—	1.1	0.6	0.15	0.115	—	石橋・富田ほか
28	細石刃	黒曜石 4	松島遺跡	—	1.2	0.7	0.15	0.120	—	石橋・富田ほか
29	細石刃	黒曜石 4	松島遺跡	—	1.2	0.5	0.22	0.188	—	石橋・富田ほか
30	細石刃	黒曜石 4	松島遺跡	—	1.22	0.45	0.15	0.082	—	石橋・富田ほか
31	細石刃	黒曜石 1	松島遺跡	—	1.92	0.75	0.2	0.266	—	石橋・富田ほか
32	細石刃	チャート 1	松島遺跡	—	2.7	0.8	0.35	0.881	—	石橋・富田ほか
33	細石刃	黒曜石 1	松島遺跡	—	2.12	0.55	0.2	0.404	—	石橋・富田ほか

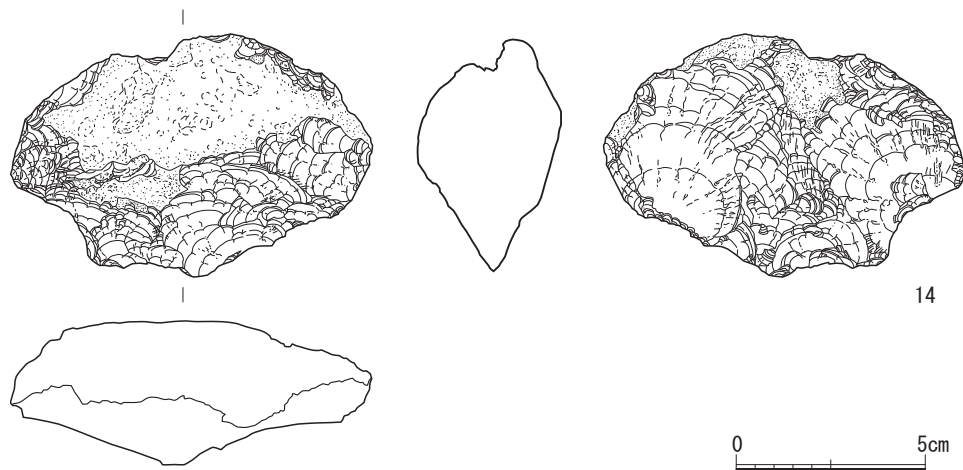
No.	器種	石材	新遺跡名	旧遺跡名	計測値				既報告 (文献名：図版No.)	採集者
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
34	細石刃	黒曜石 1	松島遺跡	—	1.78	0.8	0.2	0.213	—	石橋・富田ほか
35	細石刃	不明	松島遺跡	—	1.6	0.45	0.18	0.143	—	石橋・富田ほか
36	細石刃	黒曜石 4	松島遺跡	—	1.2	0.4	0.22	0.132	—	石橋・富田ほか
37	細石刃	黒曜石 4	松島遺跡	—	1.5	0.75	0.1	0.119	—	石橋・富田ほか
38	細石刃	黒曜石 4	松島遺跡	—	1.5	0.5	0.2	0.129	—	石橋・富田ほか
39	細石刃	黒曜石 4	松島遺跡	—	1.05	0.75	0.12	0.091	—	石橋・富田ほか
40	細石刃	黒曜石 4	松島遺跡	—	1.3	0.6	0.18	0.145	—	石橋・富田ほか
41	細石刃	黒曜石 4	松島遺跡	—	1.08	0.65	0.13	0.115	—	石橋・富田ほか
42	細石刃	黒曜石 4	松島遺跡	—	1.03	0.42	0.1	0.038	—	石橋・富田ほか
43	細石刃	黒曜石 4	松島遺跡	—	1.8	0.7	0.2	0.201	—	石橋・富田ほか
44	細石刃	黒曜石 4	松島遺跡	—	2.02	0.5	0.15	0.165	—	石橋・富田ほか
45	細石刃	チャート 2	松島遺跡	—	1.6	0.4	0.15	0.104	—	石橋・富田ほか
46	細石刃	黒曜石 4	松島遺跡	—	1.1	0.5	0.13	0.087	—	石橋・富田ほか
47	細石刃	チャート 2	松島遺跡	—	1.65	0.9	0.2	0.248	—	石橋・富田ほか
48	細石刃	チャート 2	松島遺跡	—	1.45	0.75	0.1	0.215	—	石橋・富田ほか
49	細石刃	チャート 2	松島遺跡	—	1.6	0.62	0.18	0.246	—	石橋・富田ほか
50	細石刃	黒曜石 5	松島遺跡	—	1.5	0.5	0.1	0.099	—	石橋・富田ほか
51	細石刃	黒曜石 5	松島遺跡	—	1.15	0.5	0.2	0.143	—	石橋・富田ほか
52	細石刃	チャート 2	松島遺跡	—	1.72	0.8	0.1	0.229	—	石橋・富田ほか
53	細石刃	チャート 3	松島遺跡	—	1.8	0.68	0.13	0.253	—	石橋・富田ほか
54	細石刃	チャート 2	松島遺跡	—	1.35	0.55	0.12	0.105	—	石橋・富田ほか
55	細石刃	チャート 2	松島遺跡	—	1.9	0.9	0.2	0.456	—	石橋・富田ほか
56	細石刃核	黒曜石 4	松島遺跡	—	1.6	1.8	1.6	3.846	—	石橋・富田ほか
57	細石刃核	黒曜石 1	松島遺跡	—	2.1	1.85	1.2	3.865	—	石橋・富田ほか
58	細石刃核	チャート 3	松島遺跡	—	3.6	3.45	2.3	29.458	—	石橋・富田ほか
59	細石刃核	チャート 1	松島遺跡	—	2	2.25	1.75	6.426	—	石橋・富田ほか
60	細石刃核	安山岩 5	松島遺跡	—	2.46	2.86	1.95	14.635	—	石橋・富田ほか
61	細石刃核	安山岩 3	松島遺跡	松島・小野崎遺跡	4.3	2.25	2.15	15.905	『肥後考古』第 5 号 P85	石橋・富田ほか
62	細石刃核	チャート 1	松島遺跡	松島・小野崎遺跡	2.5	2.05	2.45	11.248	『肥後考古』第 5 号 P85	石橋・富田ほか
63	細石刃核	チャート 2	松島遺跡	松島・小野崎遺跡	2.95	1.8	2.7	16.723	『肥後考古』第 5 号 P85	石橋・富田ほか
64	細石刃核	チャート 1	松島遺跡	松島・小野崎遺跡	2.8	1.85	1.3	8.366	『肥後考古』第 5 号 P85	石橋・富田ほか
65	細石刃核	チャート 1	松島遺跡	松島・小野崎遺跡	2.15	2.67	1.9	9.345	『肥後考古』第 5 号 P85	石橋・富田ほか



第2図 石器実測図 (大観峰 A 遺跡 : No. 1 ~ 7) S=1/2



第3図 石器実測図（河原第6遺跡：No. 8～11、河原第3遺跡：No.12・13）S=1/2



第4図 石器実測図（石飛分校遺跡：No.14）S=1/2

断口を示し、強いガラス光沢を放つ。

#### 黒曜石4 (No.20, 23, 28～30, 36～44, 46, 56)

黒曜石2によく似た特徴をもつが、晶子と共に晶子よりもはるかに大きい茶褐色～赤褐色の板状粒子を含む。また、No.44の細石刃では石器表面を格子状にクラックが覆っている様子が観察された。

#### 黒曜石5 (No.50, 51)

黒曜石4に似て、同様の板状粒子を含むが、表面が磨耗しており、光沢が著しく弱く透明度も低く見えるため、全体的に灰色味が強く見える。

#### チャート

チャートについては、観察結果から次の3つに細分した。

#### チャート1 (No. 32, 59, 62, 64, 65)

暗灰色半透明の岩石で、基質は緻密であり、表面は鈍い光沢を放つ。

#### チャート2 (No.45, 47～49, 52, 54, 55, 63)

明灰色の半透明～不透明の岩石で、基質は緻密であり、表面は鈍い光沢を放つ。しばしば有機物片とみられる黒色の細片を含む。

#### チャート3 (No.53, 58)

赤色の不透明な岩石で、表面は緻密である。しばしば有機物片とみられる黒色の細片を含む。割目には白色の石英脈が入り、No.58の細石刃核の窪みには二次的に晶出したとみられる水晶（石英）が存在する。

#### 不明 (No.35)

暗灰色不透明の岩石で、微細な基質中に更に暗色のラミナが2枚走る。ラミナの付近では小さな褶曲構造がみられる。ラミナ部とそれ以外の部分に明確な粒度の違いはない。

## 5 石器の観察所見

本章では、まず石器の器種・石材・遺跡名（新旧）・計測値・既報告の場合の出典・採集者などについて石器観察表にまとめた（第1表）。

次に、石器の実測図を出土遺跡ごとに掲載した（第2図～第7図）。実測図の表現については、研究者の間でも異なる場合があるが、本稿では

- ①「調整痕」…リングあり
- ②「使用痕」…リングあり+その範囲を明記
- ③新しい欠損（いわゆるガジリ痕）…白抜きというルールで図化し、掲載している。

さらに、石器の写真も出土遺跡ごとにカラーで掲載した（写真1～5）。

#### No. 1 ナイフ形石器（大観峰A遺跡）

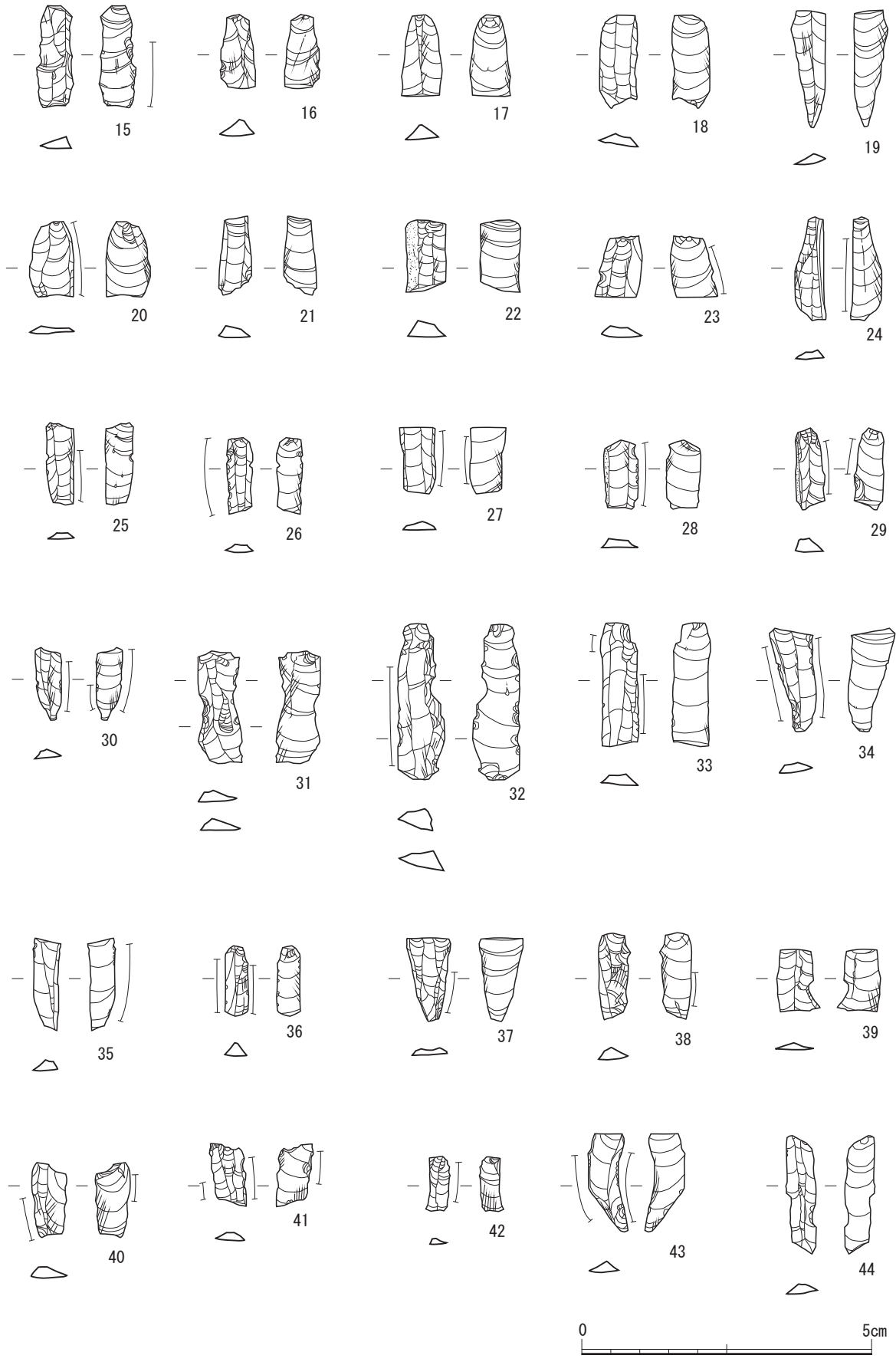
縦長剥片を素材とする基部加工のナイフ形石器。素材剥片の打面側を基部とする。両側縁に抉入状の基部加工を施す。先端部に欠損あり。微細な剥離あり。

#### No. 2 ナイフ形石器（大観峰A遺跡）

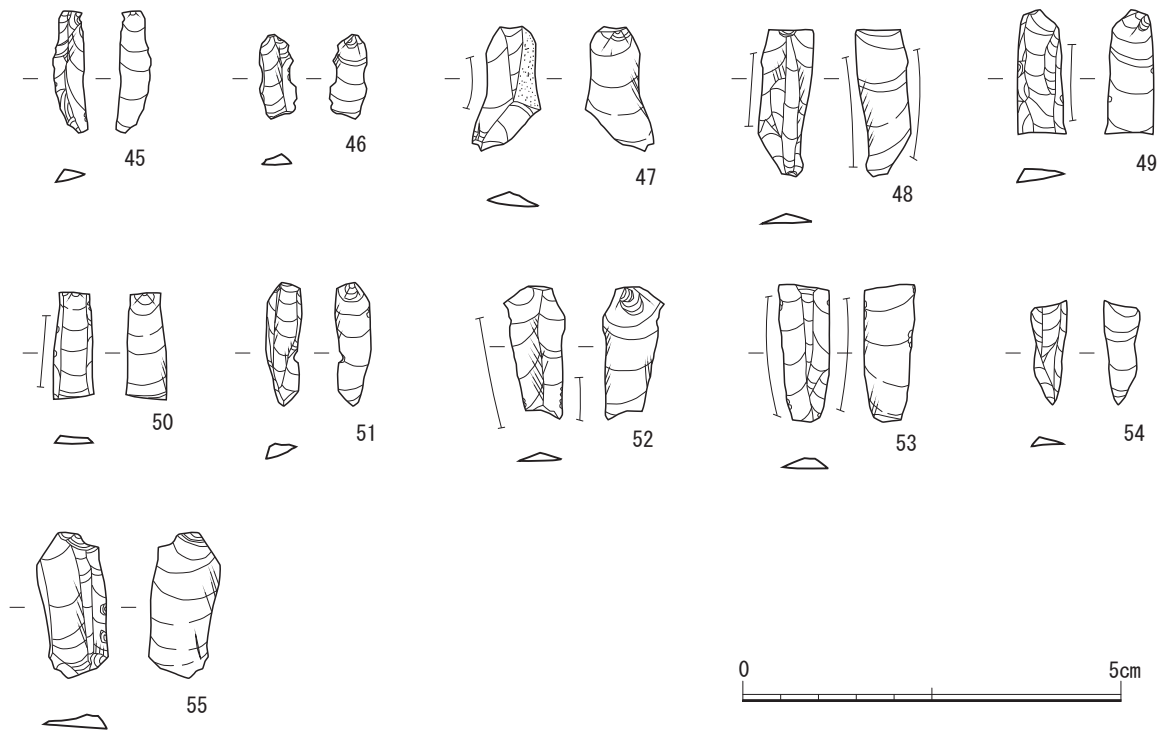
厚みのある縦長剥片を素材とする。基部には打面の素材を残す。加工は右側縁部は全縁に、左側縁は基部側にのみ抉入状に施す。

#### No. 3 ナイフ形石器（大観峰A遺跡）





第5図 石器実測図 (松島遺跡：No.15～44) S=1/1



第6図 石器実測図（松島遺跡：No.45～55）S=1/1

縦長剥片を素材とする基部加工のナイフ形石器。打面側を基部に用い、両側縁に抉入状の加工を施す。刃こぼれ状の微細な剥離あり。

**No. 4 ナイフ形石器（大観峰A遺跡）**

厚みのある縦長剥片を素材とする二側縁加工のナイフ形石器。打面側を基部に用い、左側縁は全縁に、右側縁は基部側にのみ抉入状に加工を施す。刃部に刃こぼれ、先端部には衝撃剥離の痕が認められる。

**No. 5 ナイフ形石器（大観峰A遺跡）**

縦長剥片を素材とし、基部側に部分的な加工を施す。素材剥片の打面側を基部として打面を残す。先端部に欠損あり。刃こぼれ状の微細な剥離あり。

**No. 6 剥片尖頭器（大観峰A遺跡）**

大形で厚みのある縦長剥片を素材とする。素材剥片の打面側を基部として打面を残す。両側縁に基部加工を施す。先端部に欠損あり。微細な剥離あり。

**No. 7 使用痕ある剥片（大観峰A遺跡）**

大形で厚みのある縦長剥片である。剥片の両側縁先端部側に刃こぼれ状の微細な剥離あり。剥片尖頭器の素材である可能性がある。

**No. 8 剥片尖頭器（河原第6遺跡）**

縦長剥片を素材とした剥片尖頭器。素材剥片の打

面側を基部として残し、両側縁に抉入状の加工を施す。また、右側縁先端部側にも加工を施し尖鋭な先端部を成形している。微細な剥離あり。

**No. 9 ナイフ形石器（河原第6遺跡）**

横広剥片を利用し、両側縁の基部側にのみ加工を施す。正面左側の大きな剥離面はポジティブ面である可能性がある。

**No.10 ナイフ形石器（河原第6遺跡）**

横広剥片を素材とする一側縁加工のナイフ形石器。左側縁の全縁に二次加工を施す。先端部、基部に欠損あり。

**No.11 ナイフ形石器（河原第6遺跡）**

縦長剥片を素材とする。左側縁残存部全縁に加工を施す。下半部を欠損している。

**No.12 ナイフ形石器（河原第3遺跡）**

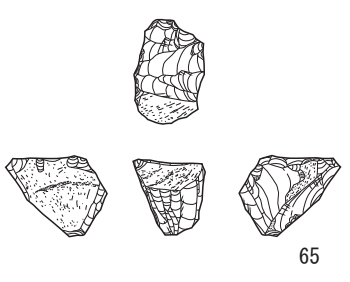
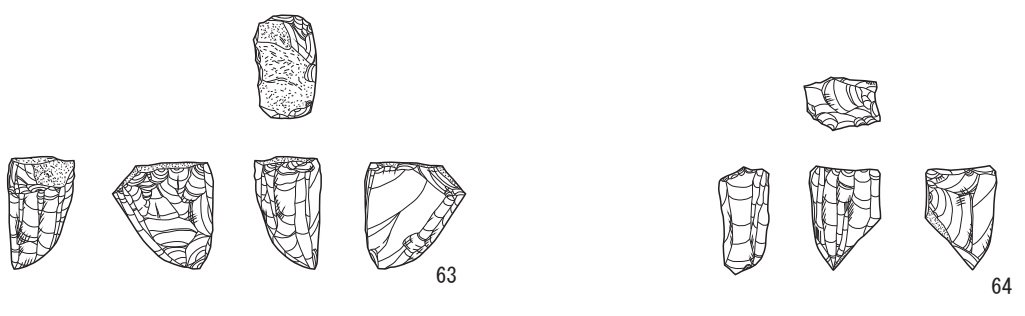
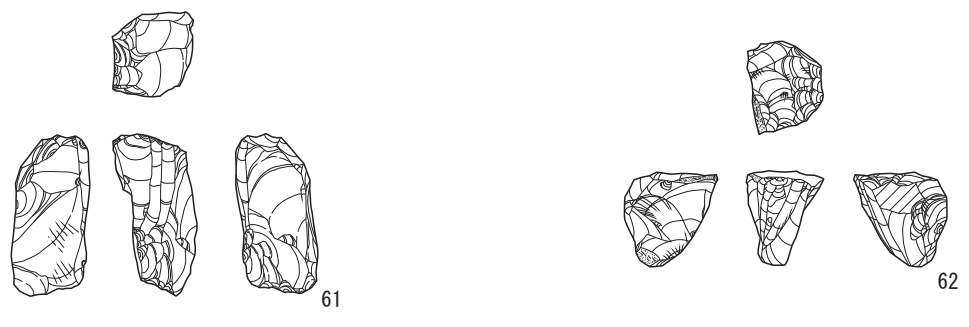
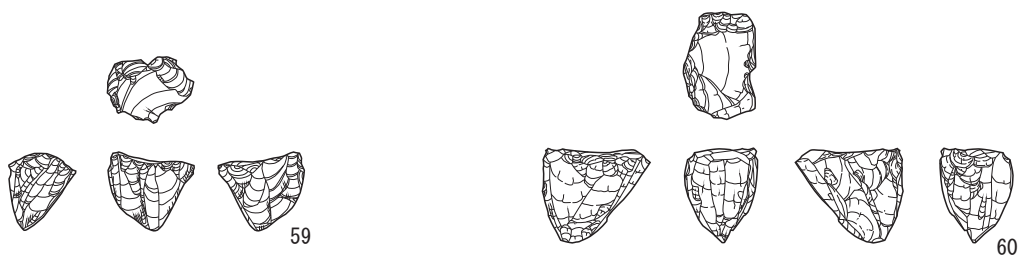
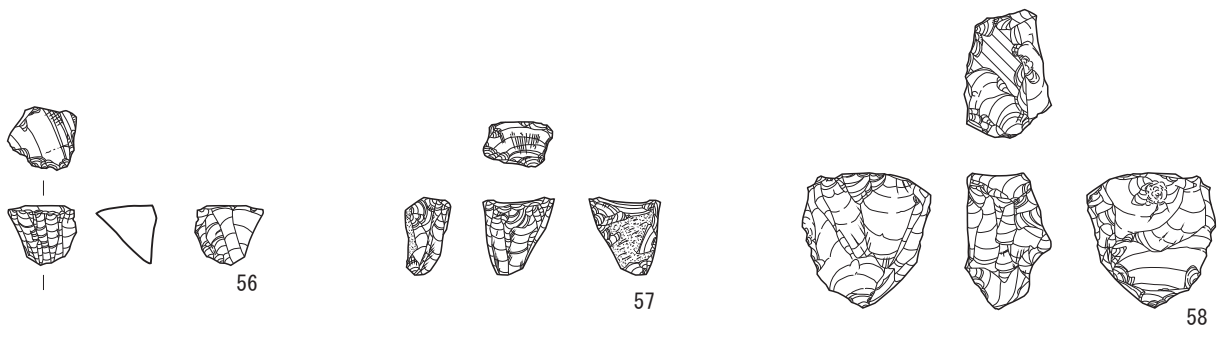
大形の横広剥片を素材として二側縁に刃潰し加工を施したナイフ形石器。

**No.13 ナイフ形石器（河原第3遺跡）**

大形で厚みのある横広剥片を素材として二側縁に刃潰し加工を施したナイフ形石器。

**No.14 礫器（石飛分校遺跡）**

不純物を多量に含む黒曜石を素材とする。交互剥



第7図 石器実測図 (松島遺跡: No.56 ~ 65) S=1/2



写真1 (大観峰 A 遺跡 : No.1 ~ 7)



写真2 (河原第6 遺跡 : No.8 ~ 11、河原第3 遺跡 : No.12・13)



写真3 (石飛分校遺跡: No.14)

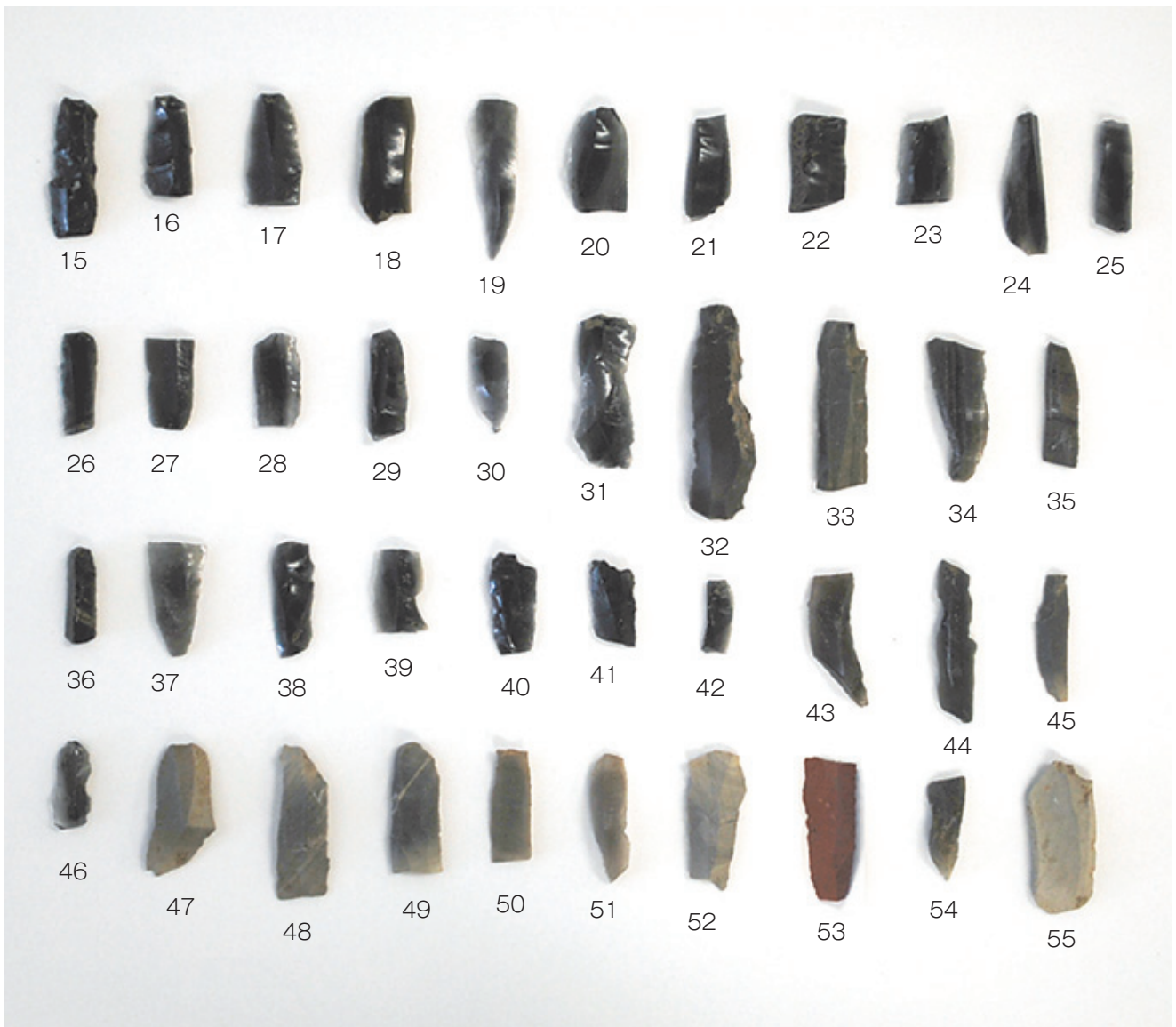


写真4 (松島遺跡: No.15 ~ 55)



写真5 (松島遺跡 : No.56 ~ 65)

離により両刃礫器状の刃部を形成しているが、石核である可能性もある。

#### No.15 ~ No.55 細石刃 (松島遺跡)

No.15・20・23 ~ 37・40 ~ 43・47・50・52・53・55には、微細な剥離あり。また No.38・48・49には、ほんのわずかな微細剥離あり。

#### No.56 ~ No.65 細石刃核 (松島遺跡)

No.61には、下部に微細剥離あり。また No.63は上面に礫面を残し、No.65は微細剥離あり、礫面あり。素材には、礫素材のもの、剥片素材のもの両者がある。打面は、剥離打面、素材面打面、自然面打面の三者があるが、打面調整を行うものが多い。剥片素材のもの下端には、調整剥離が認められるものがある。

## 6 今後に向けて (まとめ)

本稿は、熊本博物館リニューアルの準備として「新規展示予定資料」(No. 1 ~ 13) 及び「従来の常設展示資料」(No.14 ~ 65) について実測・デー

タ化し、観察所見を加えて資料紹介を行ったものである。リニューアル後の常設展示では、旧石器資料について一般の来館者にも理解を深めていただくため、イラストや模型も製作する予定である。本稿での成果を、今後の展示準備・模型製作に役立てていきたいと考える。

#### 【謝辞】

本稿を執筆するにあたり多くの皆様にご協力いただきました。ご芳名を記して感謝申し上げます。  
岩谷史記・小畑弘己・清田純一・芝康次郎・  
富田紘一・福田正文・正岡祐子・埋蔵文化財サポートシステム

(五十音順・敬称略)

#### 【註・引用文献】

- 1) 木崎康弘1985「遺跡の概観」『肥後考古』第5号 肥後考古学会 pp.21-32
- 2) 木崎康弘1991「肥後における先土器時代研究

の現状と課題』『交流の考古学—三島格会長古稀記念 肥後考古第8号—』肥後考古学会 pp.5-35

3) 註2に同じ。

4) 古森政次1982「熊本県下新発見の旧石器時代の遺跡について」『旧石器考古学』第24号 旧石器文化談話会 pp.85-98

木崎康弘1985「遺跡と遺物 10 大観峯遺跡」『肥後考古』第5号 肥後考古学会 pp.51-53

阿蘇狩人の会1998「阿蘇周辺地域における旧石器文化新資料の紹介—その1—」『肥後考古』第11号 肥後考古学会 pp.117-134

5) 江本直1986「第II章 大観峯遺跡」『熊本県旧石器時代調査報告書』熊本県文化財調査報告第81集 熊本県教育委員会 pp.5-15

6) 註2に同じ。

7) 1998年3月に刊行された熊本県遺跡地図(熊本県教育委員会)により、それまで未登録であった「西原A遺跡」は「河原第3遺跡」と、「西原B遺跡」は「河原第6遺跡」という遺跡名として新規に登録がなされた。

8) 木崎康弘1985「遺跡と遺物 13西原B遺跡／14西原A遺跡」『肥後考古』第5号 肥後考古学会 pp.57-62

阿蘇狩人の会2004「阿蘇周辺地域における旧石器文化新資料の紹介—その2—」『肥後考古』第12号 肥後考古学会 pp.96-109

9) 芝康次郎・小畑弘己編2007「第3部 河原第3遺跡発掘調査報告」『阿蘇における旧石器文化の研究』熊本大学文学部考古学研究室研究報告第2集 熊本大学文学部考古学研究室 pp.79-236

10) 註7に同じ。

11) 註8に同じ。

12) 註2に同じ。

13) 富田紘一1978「旧石器・縄文時代の熊本」『新・熊本の歴史1 古代(上)』熊本日日新聞社 pp.61-72

小畑弘己1985「遺跡と遺物 34松島・小野崎遺跡」『肥後考古』第5号 肥後考古学会 pp.84-86

14) 註2に同じ。

15) 池水寛治1968「熊本県水俣市石飛分校遺跡」『考

古学ジャーナル』第21号 ニュー・サイエンス社 pp.18-21

長野真一1985「遺跡と遺物 75石飛分校遺跡」『肥後考古』第5号 肥後考古学会 pp.133-136

水俣市教育委員会編1990「水俣市の遺跡 19. 石飛遺跡」『水俣市埋蔵文化財調査報告書 第1集』水俣市教育委員会 pp.45-50

16) 註15に同じ。

#### 【参考文献】

・阿蘇狩人の会1998「阿蘇周辺地域における旧石器文化新資料の紹介—その1—」『肥後考古』第11号 肥後考古学会

・阿蘇狩人の会2005「阿蘇周辺地域における旧石器文化新資料の紹介—その3—」『肥後考古』第13号 肥後考古学会

・阿蘇狩人の会2009(岩谷史記、稲津暢洋、岡本真也、芝康次郎、橋口剛士、古森政次、宮崎拓、村崎孝宏、山下宗親)「熊本県下における旧石器文化新資料の紹介—その2—」『肥後考古』第16号 肥後考古学会

・潮見浩1988『図解 技術の考古学』有斐閣

・江本直1997「獣を追う狩人たち」『図説 日本の歴史43 熊本県の歴史』河出書房新社

・小畑弘己2003「東アジアの旧石器文化と日本人のルーツ」『熊本歴史叢書1 古代上 遺跡からのメッセージ』熊本日日新聞社

・熊本県教育委員会2003『遺跡が語るくまもとのあゆみ—菊池川編—』熊本県文化財保護協会

・ニューサイエンス社2005「特集 旧石器時代の日本列島と朝鮮半島」『月刊 考古学ジャーナル』No.527

・高見淳2006『菊池市文化財調査報告 第1集 小野崎遺跡—赤北地区県営経営体育成基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告—』熊本県菊池市教育委員会

・上場遺跡報告書刊行会2007『市内遺跡(上場遺跡他)発掘調査報告書』出水市埋蔵文化財発掘調査報告書(16) 鹿児島県出水市教育委員会

・九州歴史資料館2011『九州国立博物館トピック展示 九州最古の狩人とその時代』九州国立博物館

- ・岩宿博物館・岩宿フォーラム実行委員会2015『岩宿フォーラム2015／シンポジウム 石器製作技術—製作技術と考古学—予稿集』
- ・熊本博物館1981『熊本博物館館報 特集—新館展示資料解説〈考古・歴史・民俗の部〉』（新館開館記念号)
- ・熊本博物館1982『開館30周年記念 収蔵資料目録—考古・歴史・民俗—』
- ・熊本博物館1985「考古常設展示室 人間生活の開始—ナイフ形石器・細石刃・細石刃核—」『熊本博物館総合案内』
- ・熊本博物館1989『熊本博物館新館開館10周年記念 熊本のあけぼの』熊本博物館友の会
- ・熊本博物館考古学同好会2006「西原 B 遺跡」『表面採集活動報告』